

## 論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Prenatal alcohol exposure and adverse fetal growth restriction: findings from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

妊娠中のアルコール摂取量と胎児発育との関連:エコチル調査からの知見

ユニットセンター(UC)等名: 北海道ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pediatric Research

年: 2021 DOI: 10.1038/s41390-021-01595-3

筆頭著者名: 長 和俊

所属UC名: 北海道ユニットセンター

目的:

妊婦のアルコール摂取量と胎児発育との関連に関する日本の研究は過去にほとんどありませんでした。そこで、本研究では、妊婦のアルコール摂取が胎児発育に及ぼす影響を調べることを目的としました。

方法:

2011年1月から2014年3月までにエコチル調査に参加された95,761名を対象としました。妊婦のアルコール摂取量は妊娠中期～後期のアンケートから算出し、出生時体格は出産時の医師からのアンケートで情報を得ました。妊娠中の非飲酒者集団を基準とし、飲酒量による出生時体格への影響を調べました。出生時体格は、体重・身長・頭囲それぞれの標準偏差(SD値; データのばらつきの大きさを表わす指標)で表しました。

結果:

妊娠中期～後期におけるアルコール摂取量の増加は、出生体重、出生身長、及び出生頭囲の減少に関連しました。特に、妊娠中期～後期にアルコール摂取量が1週間あたり5gを超えると出生体重の減少、20gを超えると出生身長の減少、100gを超えると出生頭囲の減少に影響しました。

考察:(研究の限界を含める)

本研究では、妊娠中期～後期に低用量のアルコール摂取と出生時体格との関連は、諸外国における過去の研究結果と似ていました。本研究の限界は、エコチル調査で検討しなかった遺伝的、および生理学的要因と妊婦自身の栄養はアルコール摂取量と出生時体格の両方に影響を与える可能性があります、考慮できなかったことであります。

結論:

妊娠中の低～中用量のアルコール摂取であっても妊婦の出生時体格の減少に影響を及ぼすことを明らかにしました。妊娠中のアルコール摂取は、低用量であっても避けることが望ましいです。